

《描画展全体》

- ・今年度も各学校から出品された作品を一堂に集め、複数の審査員により各学年30点を選出する方法で審査を行った。各部会の負担が軽減されることや複数の審査員の協議により審査を行うため、選出の傾向が偏りにくいことなどが利点であるが、直接、評価やアドバイスなどを伝えることができなくなったので、下の審査講評を参考にしてほしい。
- ・各部会で名簿の集約を確実にしていただいたおかげで事務作業をスムーズに行うことができた。若干、名前の違いやタイトルが入れ替わったりしていたものがあり、提出する前に各学校で十分に確認をお願いしたい。

《小学校審査講評》

【低学年】

- ・主題を大きく捉え、のびのびと描いている作品が多かった。
- ・今年は小動物（かに・虫・鳥など）と一緒に楽しく遊んでいるテーマの力作の絵が多かった。パスの塗りも力強く、重ね塗りや、指で伸ばす等と工夫がされていた。
- ・プールや水遊びの題材も多かった。人物の動きや水の彩色において担任の指導を受けて子どもたちが楽しんで仕上げていることが伝わる作品もあった。
- ・構図や色塗りや背景処理において低学年という学年の実態に合った作品が望まれる。その際、背景全面に色を塗るという仕上げから、色がついてない部分を少し残すなどして、主題となる主人公を一番目立たせるような工夫も必要である。

【中学年】

- ・人物の肌の色に工夫が見られる作品があった。しかし、やや赤っぽいと思う作品もあった。1学期に混色の学習をするときに、「肌の色のつくり方や筆のタッチの体験学習」を特に重点を入れておくとよい。
- ・下絵は水性ペンやフェルトペン、コンテ等が使ってたが、はしペンの線も面白いと思った。またパスの下絵もあったが、線がやや太すぎて彩色より目だってしまったのが残念であった。
- ・人物は正面を向いている作品が多々あったが、斜め横の構図や視線（対象物の方を向く）等にも配慮すると、より表情豊かな作品になる。
- ・中学年人物画では、低学年と比べ主題になる人物1人ではなく、その人を支える周りの人物などを中景や遠景にいれると遠近感が出る構図になる。

【高学年】

- ・5年生の船の絵が多く、構図や色塗りにおいて工夫がされていてレベルが高かった。また、5年生には、乗り物や建物も立体的で見る角度を工夫したすばらしい構図のものが多かった。色彩は、全体的に淡彩な作品が多かった。
- ・6年年生は、まだ完成してないと思われる（色塗りの時間が足りなかった？）作品が目立った。特に背景になる空や山の着色や船体の塗りこみ等、もう少しこれから色を重ねていくとすばらしい作品になるのと思う作品があり残念であった。
- ・街並みの風景など遠近法を取り入れた作品もあり、中学校へつながる作品もあった。
- ・なかには、色塗りはすばらしいものがあったが、下絵の時、主題を強調する画面構成の学習

の時にもう少し教師の助言が必要だったと思う作品があった。

- ・高学年は授業時数も50時間という中で教師も子どももやりくりして取り組んでいるのが伝わってきた。年間計画の工夫で、1学期に下絵を完成させておくというある学校の実践例をお聞きしたが、一考の余地があると思う。

《中学校審査講評》

【中学1年生】

- ・全体的に見て、テーマや構図の取り方に大きな差がみられ、風景画としての作品性がやや弱かった。また、例年と比べ海や船の絵が少なく感じた。天草のよさを感じられるような作品がもっと増えるとよいと思う。
- ・毎年であるが他学年と比べるとやはり描き込みが足りないように感ずる。まずは、対象をよく観察し、色や明暗などのちょっとした変化に気づき、混色や重色、ぼかしやにじみなどの水彩技法を活用して、根気強く描き込んでいくと完成度がぐっと上がると思う。
- ・ものの形を線ではなく面の明暗でとらえて描くよう心がけていくと、もっと立体感や空間の表現などにつながっていくと思う。

【中学2年生】

- ・例年と比べて作品の完成度が高く、よく描きこまれている作品が多かった。特に人物画はテーマの拡がりがあり、色彩豊かな表現が多く見られた。中には不透明な塗り方で点描やドライブラシなどの技法を活用して描き込まれた作品もあり、絵の具の発色も良く見応えのある色合いとなっていた。
- ・風景画は、透視図法を用い遠近感や奥行きが表現され、さらに明暗を意識した色彩で立体的に描かれた作品が多かった。

【中学3年生】

- ・広がりや奥行きを感じる作品、建物や自然のもののよさを表した作品、屋内の空間を表現した作品、思い出のものを主題にした作品など、テーマ性が強く個性豊かな作品が多かった。また、どの作品も時間をかけてじっくり描かれており、3年生の力量を感じる作品が多かった。
- ・いろんな水彩技法を活用したり、筆のタッチや明暗の表現を工夫したりして質感や立体感がよく描き出されていた。また、細かな部分の表現までこだわった作品も多く、見応えのある作品ばかりであった。